

海外安全対策情報（ポルトガル・2024年7月～9月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2023年の犯罪発生状況

2023年の一般犯罪認知件数は 371,995 件で、前年比8.2%(28,150件)増加し、新型コロナウイルス感染拡大前の 2019年と比較すると 10.8%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は 14,022 件で、犯罪全体に占める割合は 3.8%です。前年比では 5.6%増加しましたが、2019年と比較すると 2.6%減少しました。

認知件数が増加した犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくり強盗が目立ち、凶悪犯罪全体の 52%を占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、クレジットカード等の不正使用が前年比 67% (10,386 件)、麻薬・薬物の密売が 20.1% (7,550 件)、商業施設等に対する窃盗が 16.7% (8,279 件)それぞれ増加しました。

イ 2024年の犯罪発生状況等

(ア) 受刑者の逃亡

9月7日、アザンブージャ市内アルコエントレ地区にあるヴァレ・デ・ジュデウス刑務所から強盗や組織犯罪などの罪で収監されていた受刑者5名（ポルトガル人2名、アルゼンチン人1名、英国人1名、ジョージア人1名）が逃走しました。5名については国際手配がかかっており、関連情報に触れた際には112番に通報するよう警察が協力を求めています。



(イ) 森林火災

9月にポルトガル北部と中央部で発生した火災が発生し、政府は9月17日に大規模森林火災が発生している地域について「警戒事態」を宣言しました。9月15日から20日にかけて約13.5万ヘクタールの森林が焼失し、今年の焼失面積は約14.7万ヘクタール過去10年間で3番目の焼失規模となりました。9月27日までには放火罪の容疑で24人が拘束されました。

(ウ) サイバー犯罪の増加

サイバーセキュリティ監視機関によると、2023年におけるサイバー犯罪の認知件数は2,512件（前年比13%増）でした。攻撃の中でも最もインパクトがあるのはランサムウェアで、公的機関も被害を受けています。個人や中小企業もフィッシングやスミッシングなどの詐欺被害を被っています。

(エ) 詐欺に関する注意喚起

8月15日、治安警察庁（PSP）は今年上半期に“スプーフィング攻撃”の被害届が数多く提出されていることに関連して、注意喚起を行いました。“スプーフィング攻撃”は、攻撃者が自分のIPアドレスや電話番号、メールなどを偽装して他人のデバイスやユーザーになりすますものです。金融機関や公的機関のメールや携帯のメッセージSMSを偽装した手口による被害が多いとのこと。

(オ) 交通事故死亡者数

道路安全機関 ANSR によると、今年1月から5月の交通事故死亡者数は179名です。被害者の出た交通事故は14,045件で、重傷者は954名、軽傷者は16,332名です。違反種別については、速度違反が259,492件、飲酒運転10,459件、無保険7,134件、車検義務違反22,920件、携帯使用6,441件です。

(2) 邦人被害

2024年7月から9月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害は、盗難が11件でした。リスボン市内アルファマ地区、ベレン地区、バイシャシアード地区、ポルト市内セー地区、ロカ岬といった観光地、ケーブルカー内、店舗での買物、公園での休憩、写真撮影時などに被害が散見されます。

路上や観光スポットはもちろん、ホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。常に視界に入る場所にバッグを持ちましょう。

ア 7月（すり5件）

肩掛け鞆やリュックから財布や旅券を盗まれたもの。

イ 8月（すり3件、すり未遂2件）

鞆やリュックから財布や旅券を盗まれたもの。

ウ 9月（すり3件）

鞆やリュックから財布や旅券を盗まれたもの。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 強盗

ア 路上強盗

- ・ 7月8日午前、リスボン市内リベルダーデ通りで49歳の女性が突然現れた男に刃物を突き付けられ、身に着けていたネックレスを奪われましたが、男はその場で通行人に取り押さえられました。
- ・ 7月12日15時過ぎ、カスカイス市内CPカスカイス駅近くの旧バスターミナルで14歳の少年が3人組に暴行を受け、現金200ユーロを脅し取られました。
- ・ 7月20日、リスボン市オリヴァイス地区で25歳の中国人男性が店の売上金をATMに預け入れようとした際に、男に顔面を殴られて現金3万ユーロの入った鞆をひったくられました。男は被害者の行動を事前に調べていたものとみられます。
- ・ 8月11日18時過ぎ、カスカイス市ギンショ海岸にある高級レストランから出てきた男性が、突然車で乗り付けた2人組に拳銃を突きつけられ、約16万ユーロの高級腕時計を奪われました。
- ・ 9月10日、リスボン市内ヴァスコ・ダ・ガマショッピングセンター近くにおいて、未成年の少年が携帯電話などを恐喝されました。PSPは、17歳から18歳までの少年3名を逮捕しました。

イ 住宅対象強盗

- ・ 8月25日23時頃、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市内モゼロス地区にある住宅に4人組が押し入り、80歳代の夫婦の手足を縛って部屋に閉じ込め、金品を奪って逃走しました。
- ・ 9月4日16時頃、アマドーラ市内の地下鉄ファラゲイラ駅近くの住宅に、拳銃を持った3人組が押し入りました。犯人は、住宅のインターフォンが鳴らし、扉を開けた67歳の男性に拳銃を突きつけ、金品を脅し取りました。

(2) 発砲

- ・ 9月6日、リスボン市内アルカンタラ地区にあるディスコ店Krystal前において、空に向けて拳銃を発砲した18歳と28歳の男2名が通報で駆け付けたPSPに逮捕されました。
- ・ 9月19日22時20分頃、リスボン市内Chanpalimaud財団本部のレストラン周辺で発砲事件が発生しました。

(3) 傷害

- ・ 9月17日14時頃、アザンブージャ市内にあるアザンブージャ小・中学校に防弾チョッキを着用した12歳の少年が、無差別に11歳から14歳までの生徒6名を刃物で次々と刺し、事務員に取り押さえられました。被害者6名のうち1名が腹部や頭部を刺されて重傷を負いました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。